

東京支部便り

東京支部幹事長
稲川 慎一郎
〈71 回卒〉



報友会の皆様、日頃は報友会東京支部活動にご支援とご協力を賜り、有難く厚く御礼申し上げます。

毎年「報友」に東京支部の1年間の活動や、支部総会の報告をさせて頂いていましたが、新型コロナウイルスが蔓延の為、支部総会は勿論、常任幹事会や報徳サミット、東京報徳会、在京学生とのBBQなど、計画していた行事が残念ながら全て中止になってしまいました。

世界中の新型コロナ蔓延が早期終焉になり、平常の生活が早く戻る事を心から祈ります。

東京支部は昭和60年頃、当時の福島守雄学校長が上京された時に、先輩諸氏の親睦と旧交を温めてきましたが、昭和62年になり東京支部創設の気運が盛り上がりました。そこで卒業回数30回～32回卒の有志が中心となり、平成元年東京支部が設立されました。

初代支部長には半田利晴氏（31回卒）が就任され東京支部の基礎を作られました。その後、安部忠廣氏（39回卒）大原和男氏（43回卒）追原篤男氏（53回卒）と引き継がれています。

【東京支部の役割は】

- ①母校の発展に寄与する事
- ②関西から上京して東京で孤軍奮闘、頑張っている同窓生の絆を強く結んでゆく事
- ③関西以北で報徳学園の知名度を上げる事が役割であり、存在意義があると存じます。

そこで、支部総会では学校長を始め幹部の先生方や各運動部監督、同窓会からは会長・幹事長を始め重要役職者をお招きし学園の現状や、大学進学状況、運動部の活躍をお聞きし、情報交換を行っています。在京の学生諸君を招待し先輩や同級生との懇親、野球部、ラグビー部を始め、各クラブの世代を超えた楽しい交流をしています。

金次郎会（OBが経営する飲食店でのビジネス交流会）やゴルフ会・歩こう会も開催しています。

支部の応援歌としてニシオカ・ナオト氏の作曲の「俺たちの報徳」は皆で歌うと青春を思い出し熱い気持ちでわくわくします。

学園の知名度を上げ、報徳関係者との交流を深める為に、報徳サミットや東京報徳社、国際報徳思想研究会等の会合に積極的に参加しています。

2022年東京支部総会予定

11月18日（金曜日） 会場未定

東京在住で支部に未登録の方は、是非報友会本部にご連絡下さい。

連絡先

報徳学園報友会事務局

〒663-8003 西宮市上大市28-19

TEL：0798(51)3021

2022 年 4 月 1 日東京支部役員

役 職	卒業回	氏 名
名 誉 顧 問	(特)	大 江 一 精
最 高 顧 問	39	安 倍 忠 廣
顧 問	31	佐 々 木 叶
相 談 役	40	衣 笠 宏
相 談 役	40	木 地 賢 一
支 部 長	53	追 原 篤 男
副 支 部 長	57	大 東 和 美
副 支 部 長	65	西 本 靖 彦
副 支 部 長	65	中 島 典 夫
幹 事 長	71	稲 川 慎 一 郎
副 幹 事 長	84	藤 原 豊 樹
副 幹 事 長	87	永 本 琢 也
監 査	51	松 本 欽 吾
監 査	51	清 水 正 樹
常 任 幹 事	50	坂 木 玄 理
	51	大 野 暉
	60	岩 井 茂
	63	古 市 宣
	69	太 田 剛
	71	矢 野 和 哉
	74	久 保 田 讓
	75	芦 田 隆
	76	高 橋 利 喜 夫
	87	倉 増 拓
	87	仕 田 中 格
	91	衛 藤 晋 吾

役 職	卒業回	氏 名
幹 事	51	吉 永 忠 成
	51	広 瀬 忠
	53	田 畑 雅 夫
	57	岩 井 胤 夫
	57	佐 野 邦 臣
	62	金 沢 真 哉
	62	坂 本 庄 造
	63	大 山 文 雄
	65	林 正 和
	75	中 村 琢 磨
	78	横 田 優 一
	85	吉 川 康 介
	86	三 好 雅 之
	89	吉 田 一 真



東京支部便り

東京支部長
報友会副会長
追原 篤男
(53 回卒)



東京1964オリンピックと東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会 2回のオリンピックに携われて



昨年の7～9月コロナ禍の中、無観客開催でしたが、日本で2回目のオリンピック・パラリンピックが開催され、野球を始め、柔道、ラグビーなどアスリート達の素晴らしい活躍や、パラリンピックでの車椅子ラグビー、バスケット、ボッチャの選手から涙が止まらない程の感動と勇気をもらいました。今回は主としてパラリンピックを中心に支援致しましたが、実は57年前の東京オリンピックにも、私の青春時代の熱い思い出があります。

昭和38年に報徳学園を卒業し中央大学に入学、夏休みに自動車の運転免許を取得し、友人の父が経営する新宿の運送会社で、時間のある時に運転手のアルバイトをしていました。

高校時代は柔道部で寺島監督に鍛えられ、力仕事には自信があり、結構楽しい仕事でした。

昭和39年10月に東京オリンピックが始まりましたので、大会事務局に派遣され各種資材の運送をしていました。最終日の10月21日、大会役員が血相を変えて



て運転手控室に飛んできて、『大変だ、あの荷物を運んでいなかった!』と叫び『すぐにあの荷物をトラックに積んで甲州街道を調布まで走れ』と怒鳴りました。控室には私しかいなかったもので、慌てて直径1.5メートル高さ2メートルの円錐形の荷物をトラックに積み込みました。するとパトカーと白バイがサイレンを鳴らしながら近づき、パトカーに乗り込んだ大会役員が、「トラックで後ろに付いてこい」と怒鳴り、白バイが先導して走り出しました。しばらく走り赤信号で停車すると、白バイが戻ってきて『止まるな、直進しろ』と又、怒鳴られました。それからはパトカー先導で信号無視で突っ走りました。

甲州街道に入ると街道の両側には警察官が20～30メートル間隔に立ち、交通規制が始まっていました。その中を全速力で20km先の調布に到着、指定の場所にその荷物を設置しました。その荷物とは『マラソンの折り返し標識』だったのです。東京オリンピックの最後を飾るマラソンのスタートが始まろうとしていたのに、大会事務局の手違いで、まだ折り返し標識が設置されていなかったのです。関係者は大慌てだったでしょうね。

もし、私がお場に待機しておらず、折り返し地点の標識設置が間に合わなければ、「はだしのアベベ」や「円谷」選手が折り返す事ができずに、まだ甲州街道を走っていて、東京オリンピックが終了していなかったかもしれませんね。今では、調布の味の素スタジアム横に、私の功績を讃えるような、折り返し地点の記念碑が建てられています(笑)。



今回の東京2020ではライオンズクラブでパラリンピック支援活動を致しました。

2004年同和火災の関連会社社長の時代、世界最大のボランティア団体、ライオンズクラブ国際協会の、1952年日本で最初に設立された東京ライオンズクラブに入会しました。

そのモットーは報徳の基本理念に近く、盲導犬育成街頭募金などの視力障がい者支援や、マニラの貧困地区での学校建設、ミャンマーでの中高一貫校へのコンピューター教室開設など青少年健全育成や、東日本大震災復興支援等、様々な奉仕活動を行ってきました。その後クラブ会長、リジョンチエアマン等を歴任、4年前にオリンピック・パラリンピック支援委員長に就任しました。全国のライオンズクラブメンバー10万人から5年間に渡り、約5億円の支援金を募り、「We Serve」をモットーに素晴らしい仲間と共に、下記5件の支援事業を行いました。

1 パラリンピック出場を目指している次世代選手への支援事業

NF(国内競技連盟)日本代表選手以外の、その一歩手前のパラ選手に対する財政的支援を行い、2年間で延べ334人に約2億円の活動支援を行いました。その内60名が日本代表入りを果たし、9名の選手が10個のメダルを獲得してくれ、大きな成果と感謝を頂きました。

2 新国立競技場付近にライオンズモニュメント設置東京2020のエンブレムをデザインされた野老朝雄氏の設計による

モニュメント(直径1.2m 高さ約8m)を東京体育館敷地内に設置



③ 樹齢1000年のオリーブの樹(スペイン産)を植樹
古代オリンピアに因みオリーブの木を新国立競技場前セキュリティエリア内に 2020 年 3 月植樹しました。

④ パラリンピックメダリストへの報奨金の贈呈パラリンピック競技大会でメダリストを輩出した14の障害者

スポーツ団体に対し、引き続き障がい者スポーツ全体の発展に寄与することを目的とする、活動助成報奨金を贈呈しました。

⑤ 障がいを持った子供達1500名をパラリンピック競技会場へ招待

コロナ禍の為無観客開催となり、子供達の健康を鑑み観戦招待を中止しましたが、選手たちの勇気と感動を共有してもらう為、参加予定だった子供達に、特別報道写真集の贈呈をしました。

日本で開催された2回のオリンピックに携さわる事ができ幸せて、生涯の思い出になりました。
報徳とライオンズクラブに感謝いたします。

報友会 ごあいさつ



副幹事長 (広報部兼任)

中村 和史
(69 回卒)

新緑の候、報友会の皆様におかれましては益々のご健勝のこととお慶び申し上げます。

平素は報友会へのご理解、ご支援、ご協力を賜り誠にありがとうございます。

昭和50年に報徳学園高等学校に入学しそこで少林寺拳法部に入部をして位田先生、諸先輩方、同期の仲間、後輩に出会い高校時代の教え、出会いが自分の人生に大きな影響を与えてくれたことに感謝しております。今、思えば高校生の時に誰に出会うかによって人の人生は大きく変わることが出来るのではないかと思います。高校時代に報徳の精神、そして少林寺拳法の教えを学び、若い時には理解も出来ず、まだガラガラしてた自分が居ましたが、年齢を重ねるとともに素晴らしい

い教えで有ることが判りこの学校を卒業して良かったと思えるようになりました。

今、世の中の変化が速く、昔の常識が間違えてるような風潮になってきてますが、人間としての基本は二宮尊徳先生の教えではないでしょうか。我が恩師でもある位田先生が卒業してからでもお会いするたび常に報徳訓を説き、指針を示して頂いているのには感謝しております。我が息子たちも報徳に入学し現在では社会人として生活しております。

今、60歳も過ぎ思うことは、良い大学、良い会社に入ることも大事かもしれませんが普通に社会で活躍し自分の道を歩いて行ってくれることを願い、いずれ結婚し子どもが出来、孫を抱かしてくれるような当たり前の人生を歩んで行って欲しいと思ってます。報徳報友会のお手伝いをさせて頂き早10年以上が過ぎましたが、母校のためまた後輩たちのために微力ながら協力していきたいと思ひます。

今後とも、報徳学園、報友会に対しましてご協力、ご支援の程よろしくお願い申し上げます。